


株式会社 KIT

 **RADEN** を使おう！  
入門編 Part2

## はじめに

この度は弊社ソフトウェア『RADEN』をご使用いただき、誠にありがとうございます。  
本書は、RADEN を使用する方々を対象にした入門書です。RADEN にふれて使い方に慣れてもらうために、図を多く用いて具体的な操作手順を本書に示しました。

### 著作権および商標について

RADEN は、(株)KIT の登録商標です。

Microsoft および Windows は、米国マイクロソフト社の米国、および その他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

本書の一部または全部を許可なく複製、複写、転載することを禁止します。

Copyright (c) 2026 KIT Co.,Ltd. All Rights Reserved.

# 目次

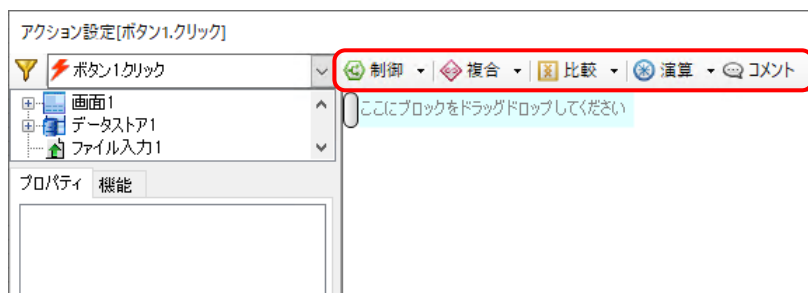
第1章	アクションの機能	1
1	条件を付けて処理を分岐させる	1
1.1	指定の値を比較する	1
1.2	動作確認	3
1.3	複数の値を比較する	4
1.4	動作確認	5
2	計算とテキストの結合	6
2.1	値を計算する	6
2.2	動作確認	7
2.3	テキストを結合する	7
2.4	動作確認	8
第2章	画面部品の使い方	9
1	ラベル	10
1.1	書式を設定する	11
2	ラジオボタン	12
2.1	選択肢を設定する	13
2.2	アクションを設定する	13
3	コンボボックス	14
3.1	選択肢を設定する	14
3.2	アクションを作成する	15
4	チェックボックス	16
5	日時選択	17
6	メッセージボックス	18
6.1	確認メッセージを表示する	18
7	リスト	20
7.1	行とヘッダーを設定する	20
7.2	背景色	21
7.3	列幅と文字列の調整	21
7.4	スクロール	22
8	ファイル選択/フォルダ選択	23
8.1	ファイル選択	23
8.2	フォルダ選択	25
9	タブオーダー	27
10	レイアウト調整ツール	28

# 第1章 アクションの機能

RADEN でアプリケーションを開発する際に最も重要になるのが、アクション（動作）の設定です。

アクションは画面に配置した部品のプロパティや機能と、「分岐」「演算」などの各種ブロックを組み合わせることで動作を作成することができます。

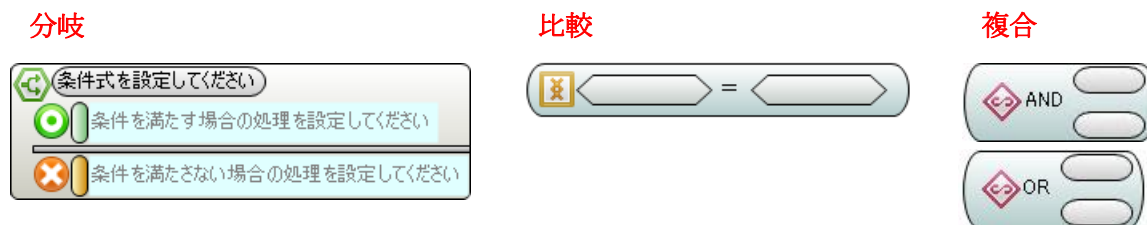
本章では、アクション設定画面の「ツールバー」のブロックについて紹介します。



## 1 条件を付けて処理を分岐させる

入門編 Prt1 でも紹介したアクションの「制御（分岐）」は、動作作成においてよく用いられるブロックで、「〇〇ならば××を、〇〇でなければ△△をせよ」のように条件を付けて動作を分岐させます。

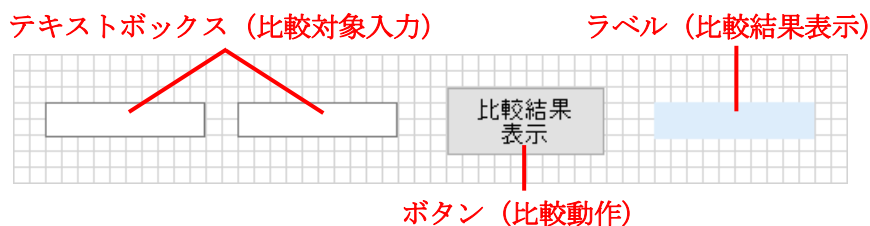
「比較」「複合」のブロックを組み合わせることで様々な条件を付けることができます。



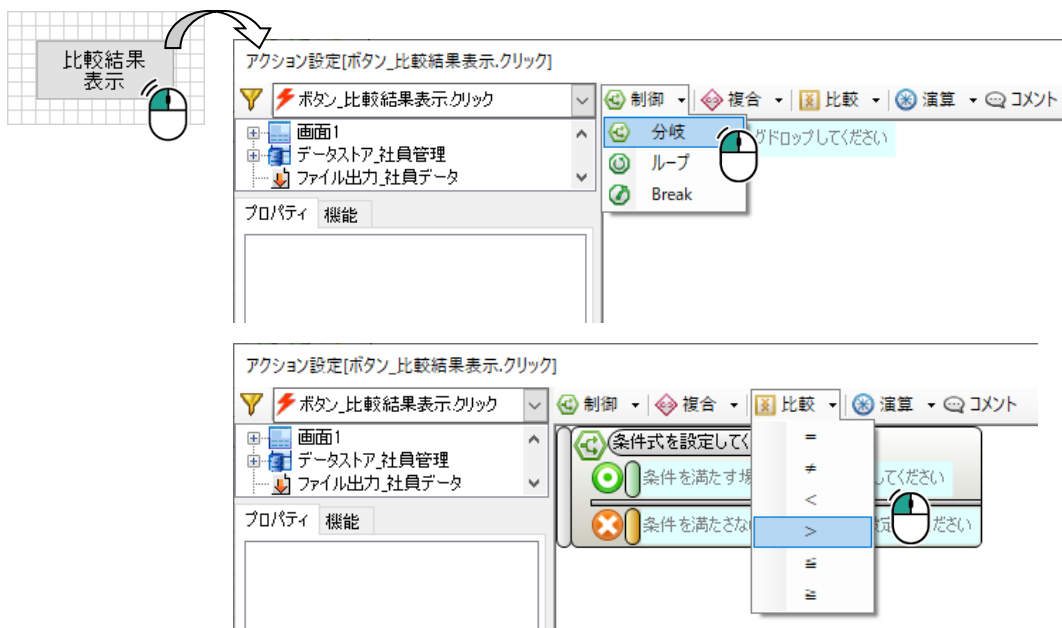
### 1.1 指定の値を比較する

2つのテキストボックス部品に入力した値を比較して、大きい方を「ラベル」部品に表示する条件式を作成してみましょう。

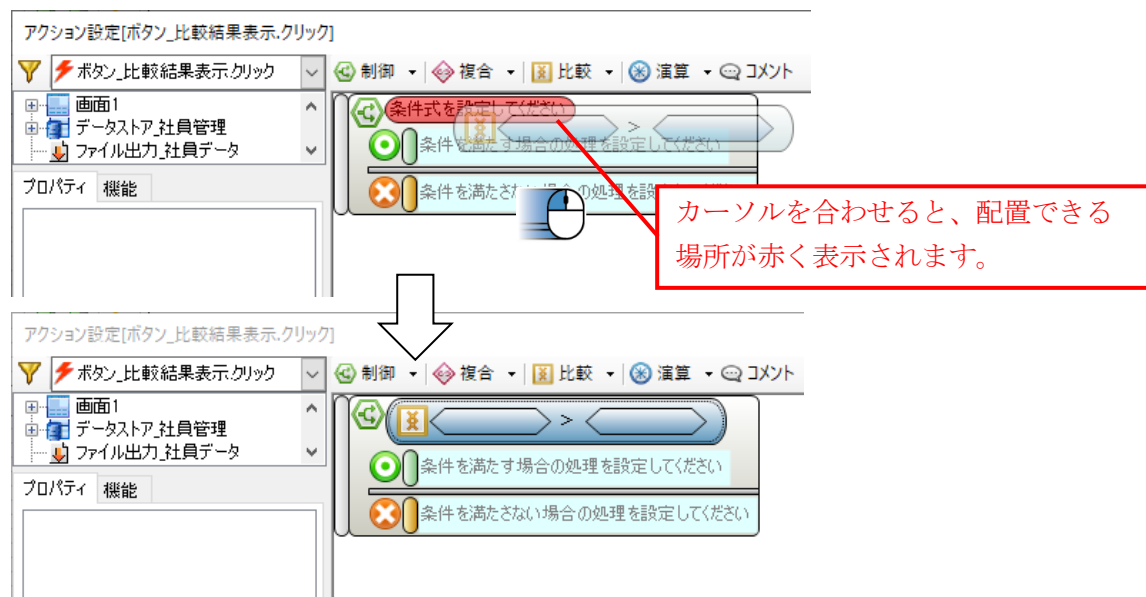
アクション設定をするために、画面に部品を配置します。



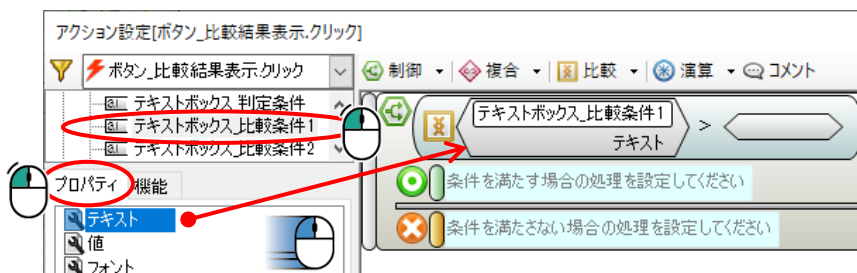
ボタン部品のクリックイベントのアクション設定に動作を作成します。  
「制御」から「分岐」ブロックを配置し、「比較」から「>」を選択します。



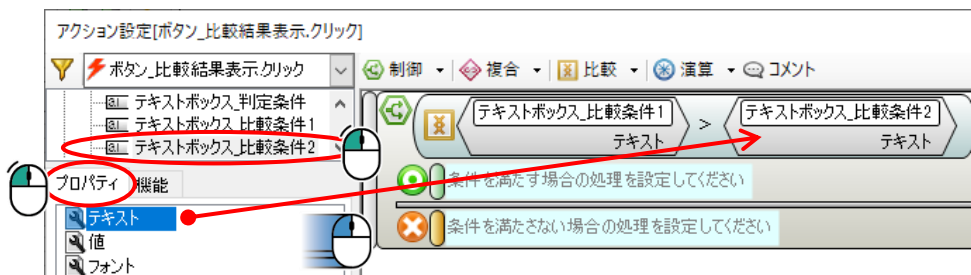
「分岐」ブロックの「条件を設定してください」と書かれた位置に、「比較 (>)」ブロックをドラッグ&ドロップで配置します。



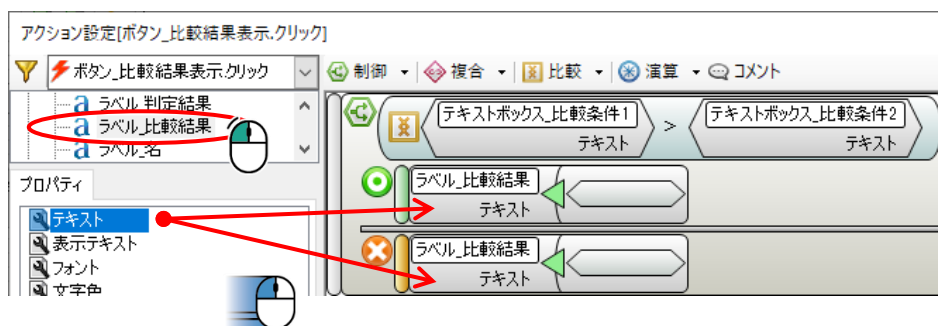
「比較」ブロックの左辺に、値を入力する1つ目の「テキストボックス」部品を選択し、プロパティから「テキスト」を配置します。



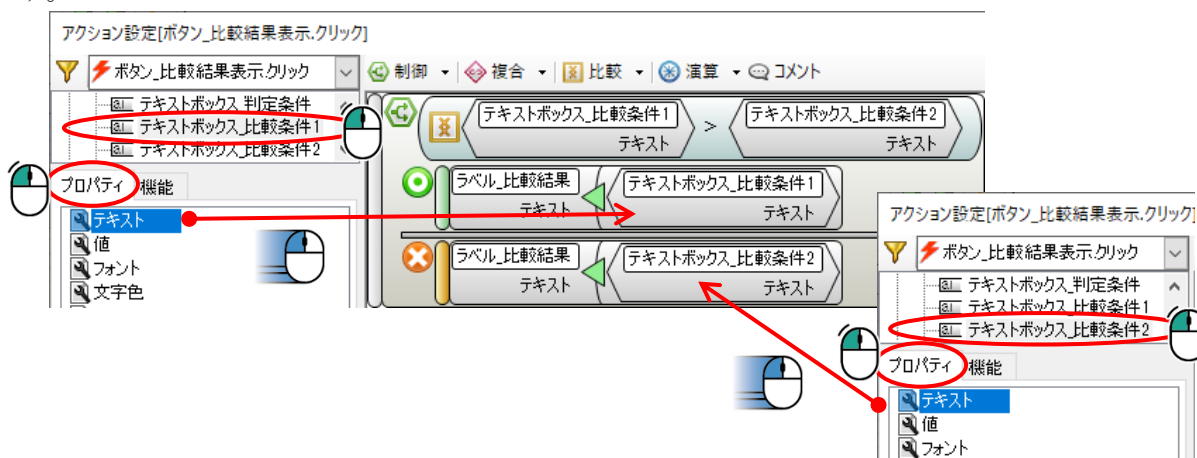
「比較 (<)」ブロックの右辺には、もう1つの「テキストボックス」部品のプロパティから「テキスト」を配置します。



処理結果を「ラベル」部品に表示させるため、条件を満たす場合と満たさない場合にラベル部品のプロパティから「テキスト」を配置します。



条件を満たす場合に「比較 (>)」ブロックの左辺に配置した「テキスト」ブロックを、条件を満たさない場合には「比較 (>)」ブロックの右辺に配置した「テキスト」ブロックを配置します。



## 1.2 動作確認

プレビュー機能で動作確認を行います。

2つのテキストボックスに値を入力し、大きい方の値をラベルに表示します。

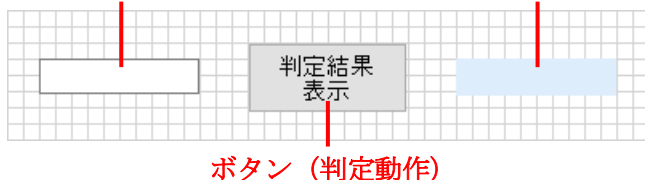
100	50	比較結果表示	100
200	300	比較結果表示	300

### 1.3 複数の値を比較する

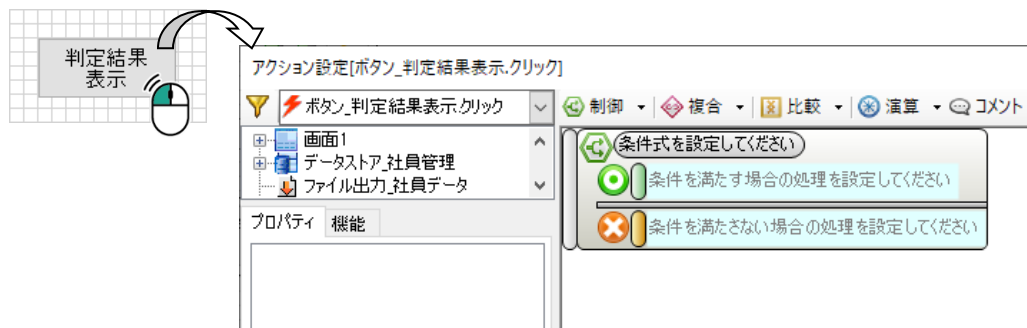
テキストボックス部品に入力した値が、50以上、100以下の場合「ラベル」に「○」を表示し、それ以外の場合には「×」を表示する条件式を作成してみましょう。

アクション設定をするために、画面に部品を配置します。

テキストボックス (判定対象入力)      ラベル (判定結果表示)



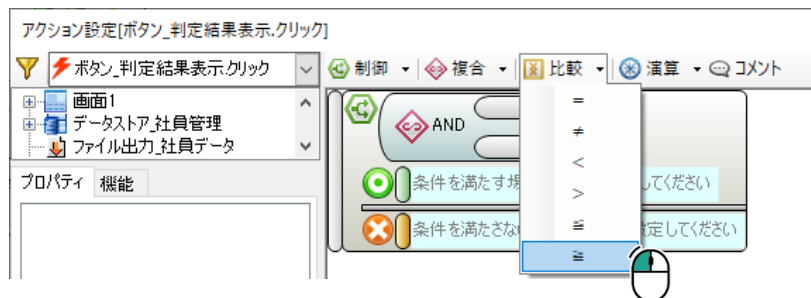
ボタン部品のクリックイベントのアクション設定に動作を作成します。  
「制御」から「分岐」ブロックを配置します。



「複合」から「AND」を選択し、「分岐」ブロックの「条件を設定してください」と書かれた位置にドラッグ&ドロップで配置します。

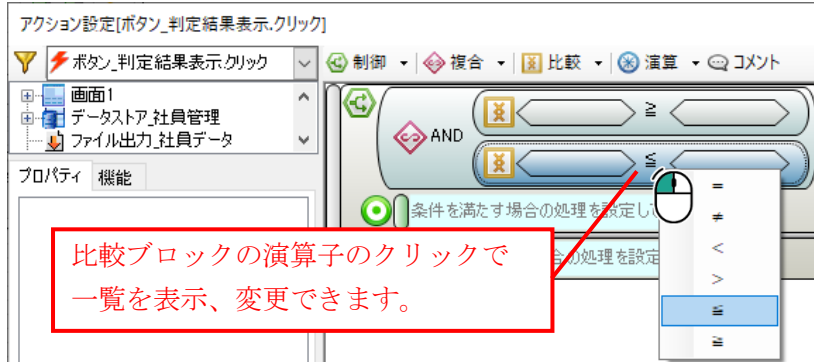


「比較」から「 $\geq$ 」を選択し、「複合 (AND)」ブロックに配置します。

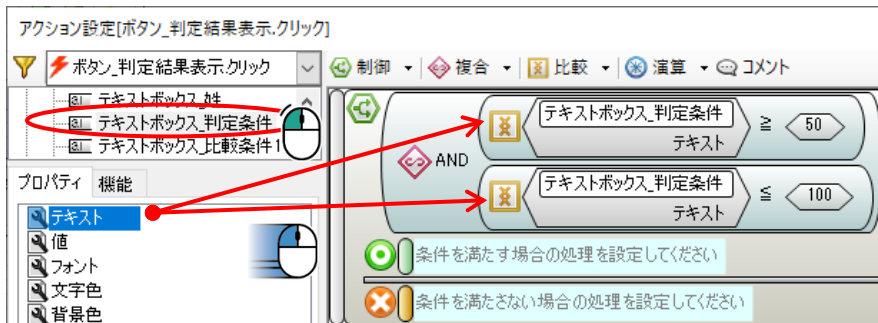




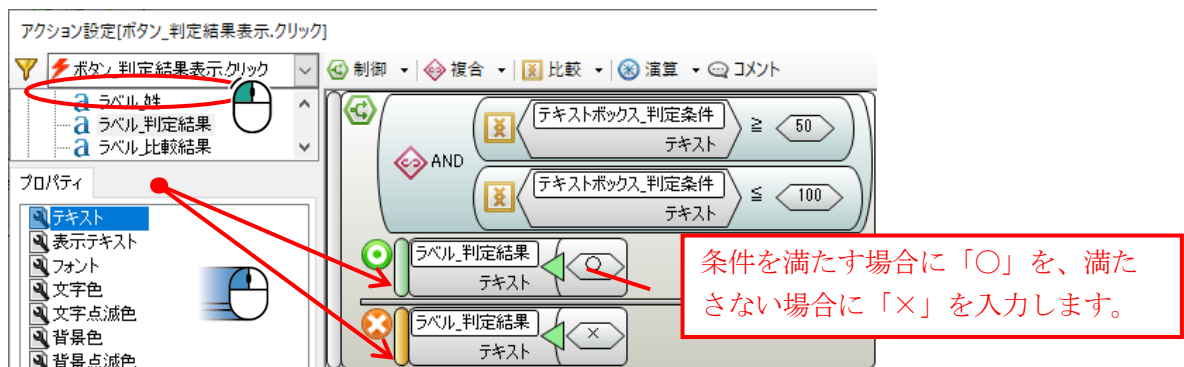
下に配置した「比較 (>=)」ブロックを「比較 (<=)」ブロックに変更します。



両方の「比較」ブロックの左辺に、「テキストボックス」部品のプロパティから「テキスト」を配置し、右辺にはそれぞれ「50」「100」を入力します。



判定結果を表示するラベル部品のプロパティから「テキスト」を配置します。



#### 1.4 動作確認

プレビュー機能で動作確認を行います。

条件は「数値が 50 以上 100 以下の場合は○、それ以外の場合は×を表示」です。

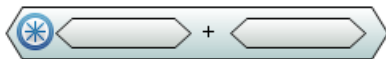


## 2 計算とテキストの結合

RADEN での計算を行う場合は、アクション設定の「演算」を使用します。

「演算」は、四則演算、テキストの結合、日時の計算を行うブロックです。

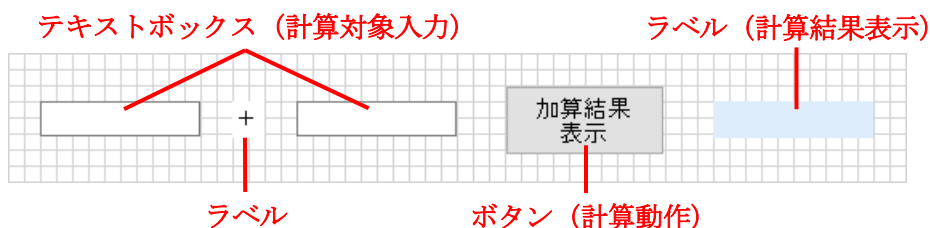
### 演算



### 2.1 値を計算する

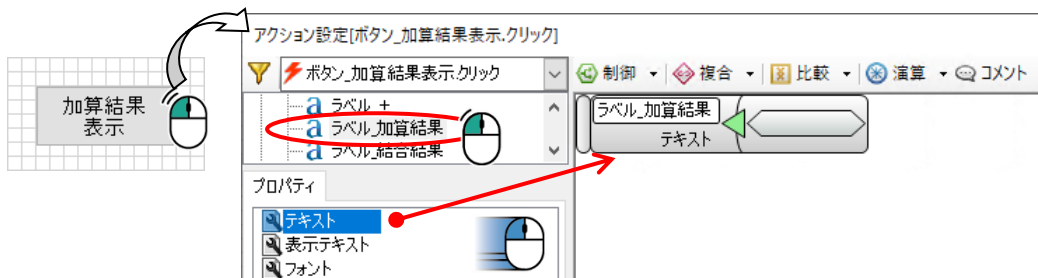
テキストボックスに入力した数値の加算をしてみましょう。和は「ラベル」に出すように設定します。

アクション設定をするために、画面に部品を配置します。



「ボタン」部品のクリックイベントにアクションを設定します。

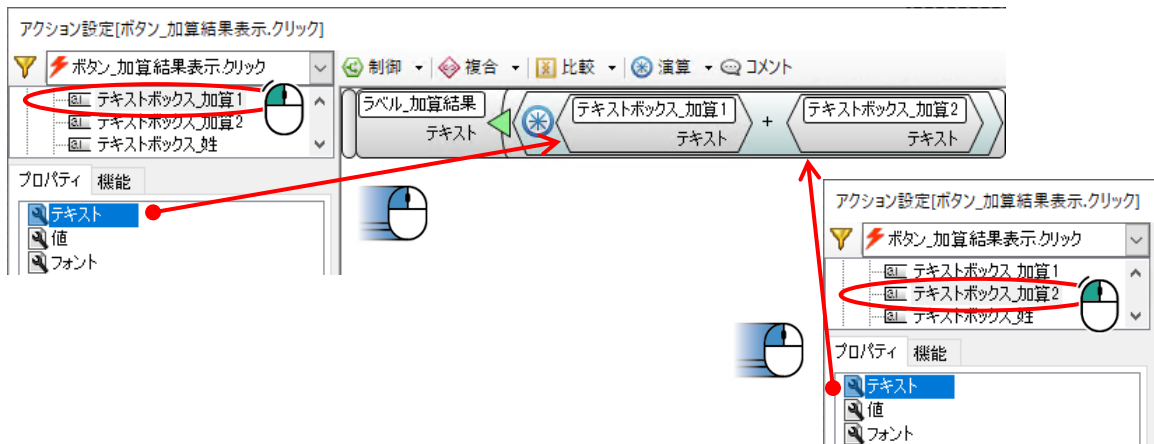
「ラベル」部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。



「演算」の中から「+」を選択し、「テキスト」ブロックの右側に配置します。



2つの「テキストボックス」部品に入力した値を計算するため、「テキストボックス」部品のプロパティから「テキスト」を演算に組み合わせます。



## 2.2 動作確認

プレビュー機能で動作確認を行います。

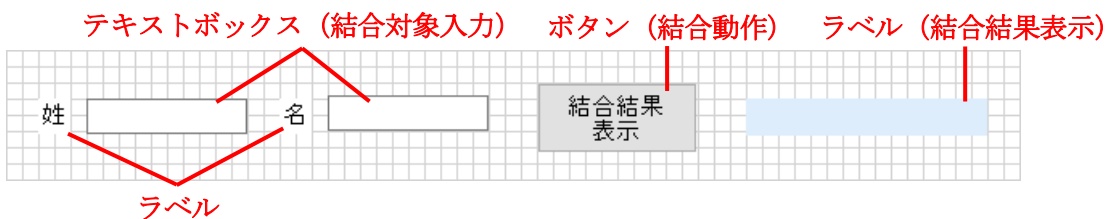


## 2.3 テキストを結合する

テキストの結合には「&」を使用します。「+」でも結合できますが、テキストが数字だった場合、加算されてしまう恐れがあるため、必ず使い分けてください。

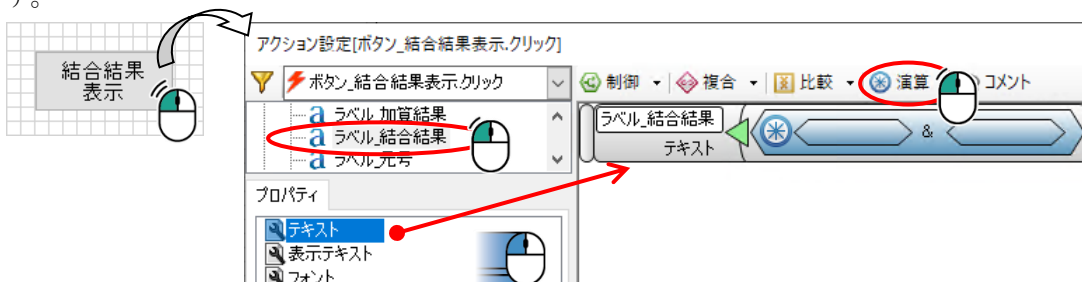
テキストボックスに入力したテキストを結合し、ラベルに出すアクションを作成してみましょう。

アクション設定をするために、画面に部品を配置します。

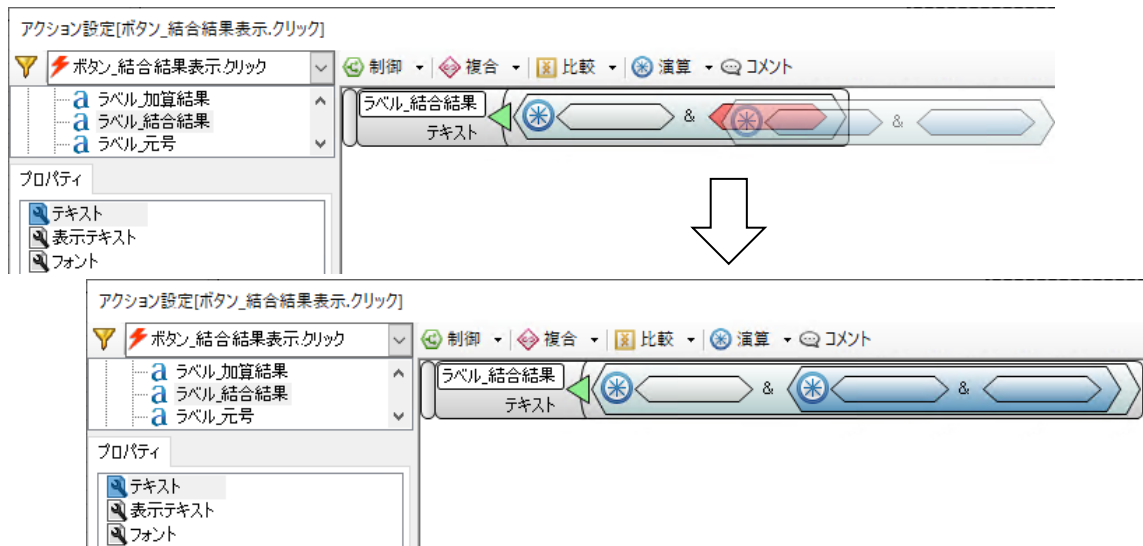


「ボタン」部品のクリックイベントにアクションを設定します。

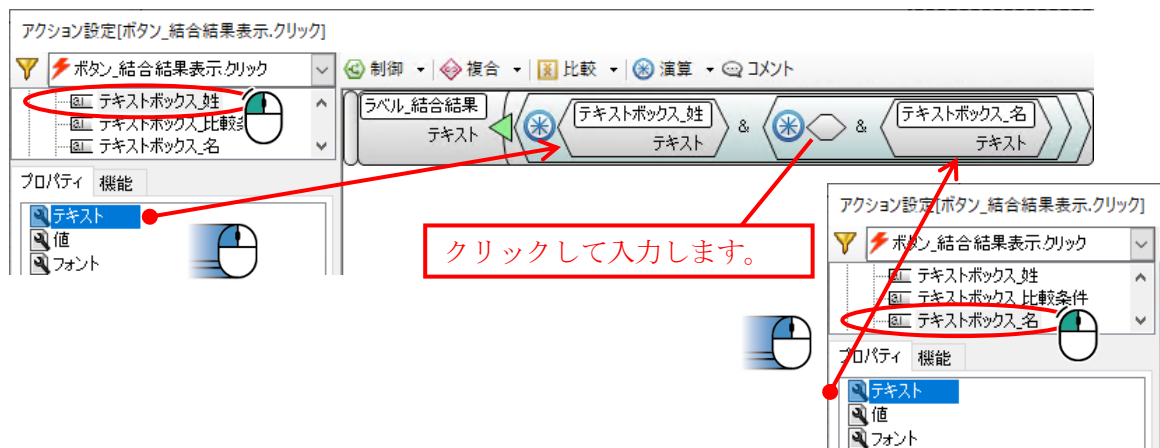
「ラベル」部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置し、「演算」から「&」を配置します。



姓と名の上にスペースを空けたい場合は、「&」をもう1つ選択し、既に配置している「&」ブロックの右側に配置します。



「テキストボックス」に入力したテキストを結合させるため、「テキストボックス」のプロパティから「テキスト」を配置します。スペースはブロックに直接入力します。



## 2.4 動作確認

プレビュー機能で動作確認を行います。



## 第2章 画面部品の使い方

RADEN は、画面を中心に考える開発ツールです。

RADEN で作るアプリケーションは1つ以上の画面が存在しないと動かせないため、画面レイアウトの作成は必要不可欠です。画面レイアウトを早く作れるようにすることが作業時間の短縮につながります。

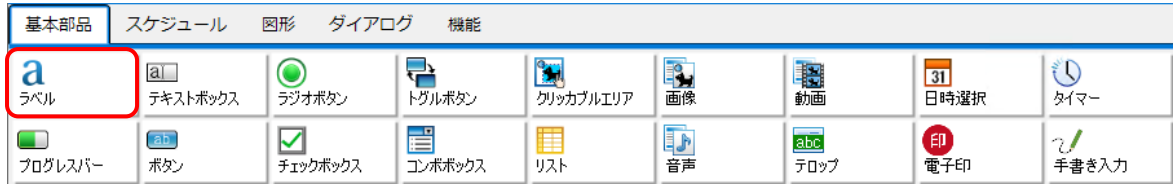
本章では、画面部品の機能とその使い方、部品に関連する機能について説明します。部品に触れながら使い方を覚えていきましょう。



# 1 ラベル

ラベル部品は、画面に文字や数値、日時など様々なテキストを表示する部品です。

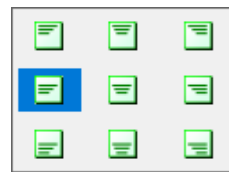
プロジェクト実行時にユーザーが触れることができないため、変更させたくないデータや、項目名の表示など多岐に渡って使用されます。



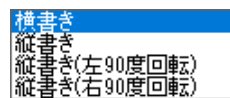
ラベル部品は表示の設定が豊富で、「テキスト方向」「書式」「点滅」などのプロパティを設定することで様々な画面構成に対応しています。

名称	
名称	ラベル1
位置・サイズ	
位置	30, 130
X	30
Y	130
サイズ	30, 30
Width	30
Height	30
表示	
テキスト	ラベル1
フォント	MS UI Gothic, 9pt
文字色	Black
文字点滅色	
背景色	White
背景点滅色	
テキスト配置	左上
テキスト方向	横書き
境界スタイル	境界線なし
境界線の太さ	1
境界線の色	Black
表示状態	表示
書式	(テキスト)
点滅間隔	0
点滅	OFF
グラデーション	OFF
縮小表示	無効

ラベル部品の範囲で配置位置を設定します。



縦書き、横書きを設定します。



書式設定画面が開きます。

データに合わせて表示の種類を設定します。

書式設定

種類

テキスト

数値

通貨

日時

サンプル

サンプル入力

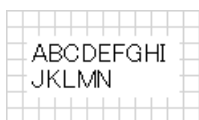
Sample

OK キャンセル

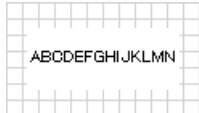
て

テキストサイズをラベル部品に合わせます。

無効



有効



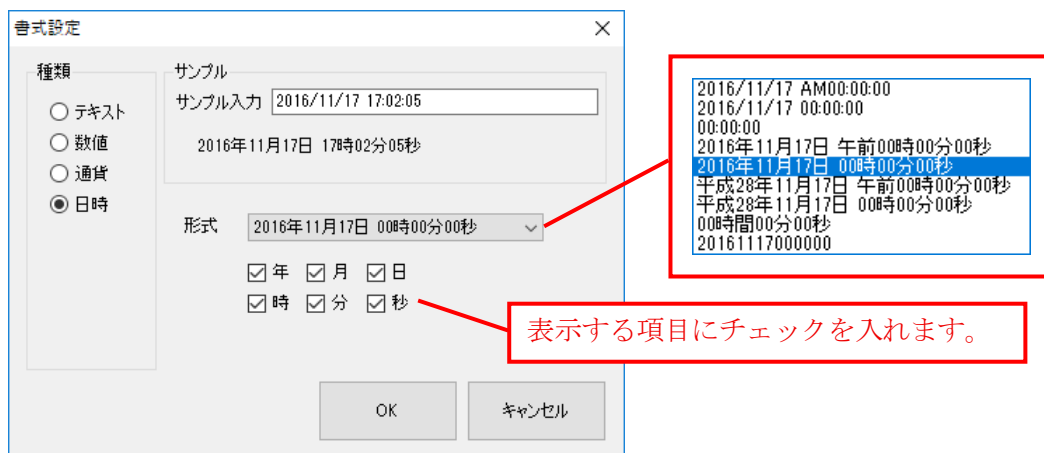
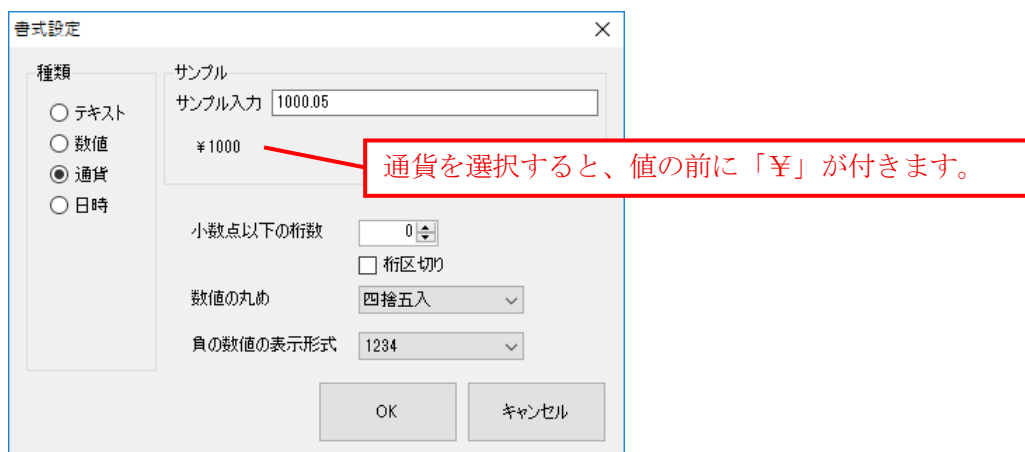
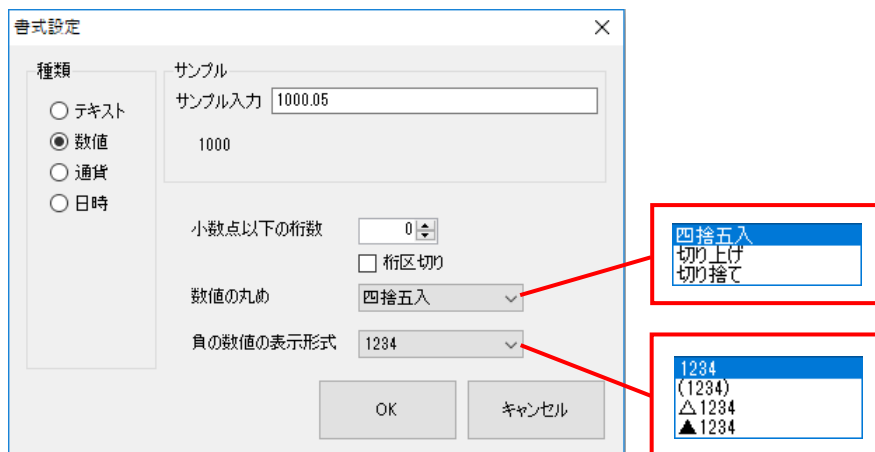
表示色を一定間隔で切り替えて点滅します。



## 1.1 書式を設定する

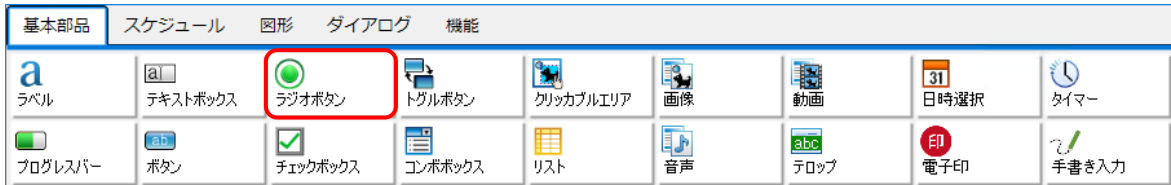
ラベル部品の書式プロパティでは、「テキスト」「数値」「通貨」「日時」の4種類の項目から設定できます。表示する内容に合わせて変更しましょう。

書式プロパティは画面表示を変える設定のため、テーブルに登録されているデータへの影響はありません。また、アプリケーション実行時に設定した書式に合わないデータがラベル部品に渡された場合は「Error」と表示されます。



## 2 ラジオボタン

ラジオボタン部品は、複数の選択肢から1つを選択する場合に使用する部品です。  
画面に選択肢を表示させるには、選択リストの設定が必要です。



ラジオボタン部品の選択項目は「配置モード」「行(列)数」などのプロパティ設定によって部品の表示範囲内に自動で配列されます。

また、「選択リスト設定」プロパティから項目名の追加、変更、削除が行えます。

名称	ラジオボタン1
位置・サイズ	
位置	80, 130
X	80
Y	130
サイズ	95, 49
Width	95
Height	49
表示	
フォント	MS UI Gothic, 9pt
背景色	White
境界スタイル	境界線なし
境界線の太さ	1
境界線の色	Black
配置モード	縦方向優先
行(列)数	2
ラジオボタン縦間隔	5
ラジオボタン横間隔	5
表示状態	表示
動作	
選択リスト設定	(選択リスト)
タブストップ	有効
タブオーダー	0
有効/無効	有効

項目の配置方向が設定できます。

縦優先      横優先

○ 項目1  
○ 項目2

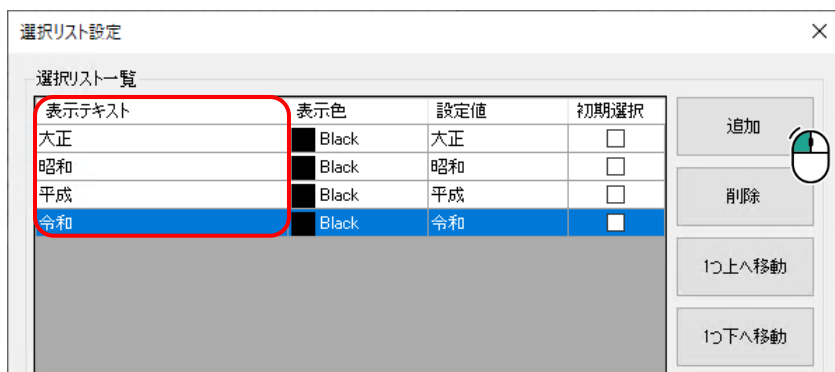
○ 項目1    ○ 項目2

選択項目を設定します。

選択リスト設定				×
選択リスト一覧				
表示テキスト	表示色	設定値	初期選択	追加
項目1	Black	項目1	<input type="checkbox"/>	削除
項目2	Black	項目2	<input type="checkbox"/>	
				1つ上へ移動
				1つ下へ移動
				OK
				キャンセル

## 2.1 選択肢を設定する

「選択リスト設定」プロパティから設定画面を開き、選択リストを作成してみましょう。  
項目の追加、削除、表示順の変更は画面右側のボタンから行います。



「表示テキスト」を入力すると「設定値」にも自動的に同じ内容が入力されます。「表示テキスト」は画面に表示されるテキストで、「設定値」はRADEN内部に保存される値です。

また、「初期選択」から、初期状態で選択される項目を1つ設定することができます。

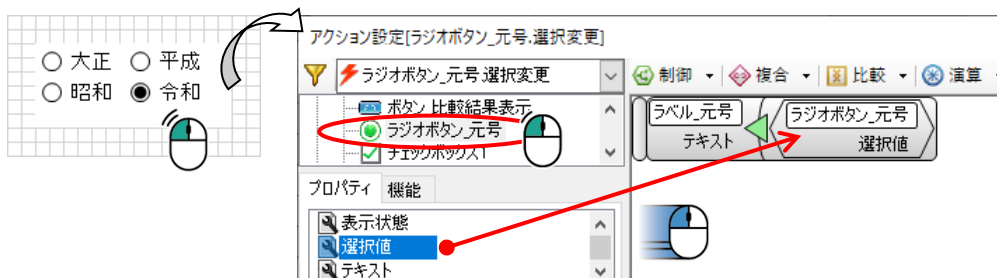


## 2.2 アクションを設定する

ラジオボタン部品は、選択肢が変更された時に発生する「選択変更」イベントを持ちます。

ラジオボタン部品の選択結果をラベル部品に取得してみましょう。

アクション設定画面を開き、表示する「ラベル」部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。「テキスト」ブロックに「ラジオボタン」部品のプロパティから「選択値」ブロックを代入することで、選択値の取得ができます。



<実行結果>

大正    平成  
 昭和    令和

1

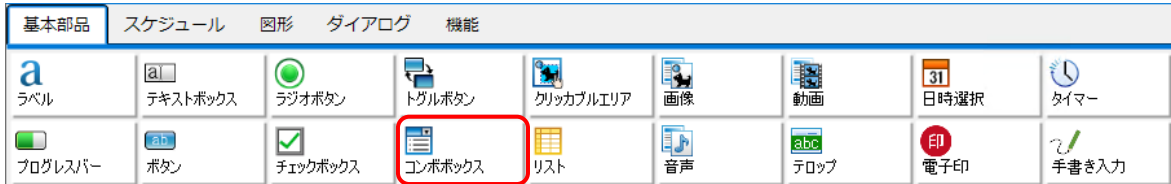
大正    平成  
 昭和    令和

3

### 3 コンボボックス

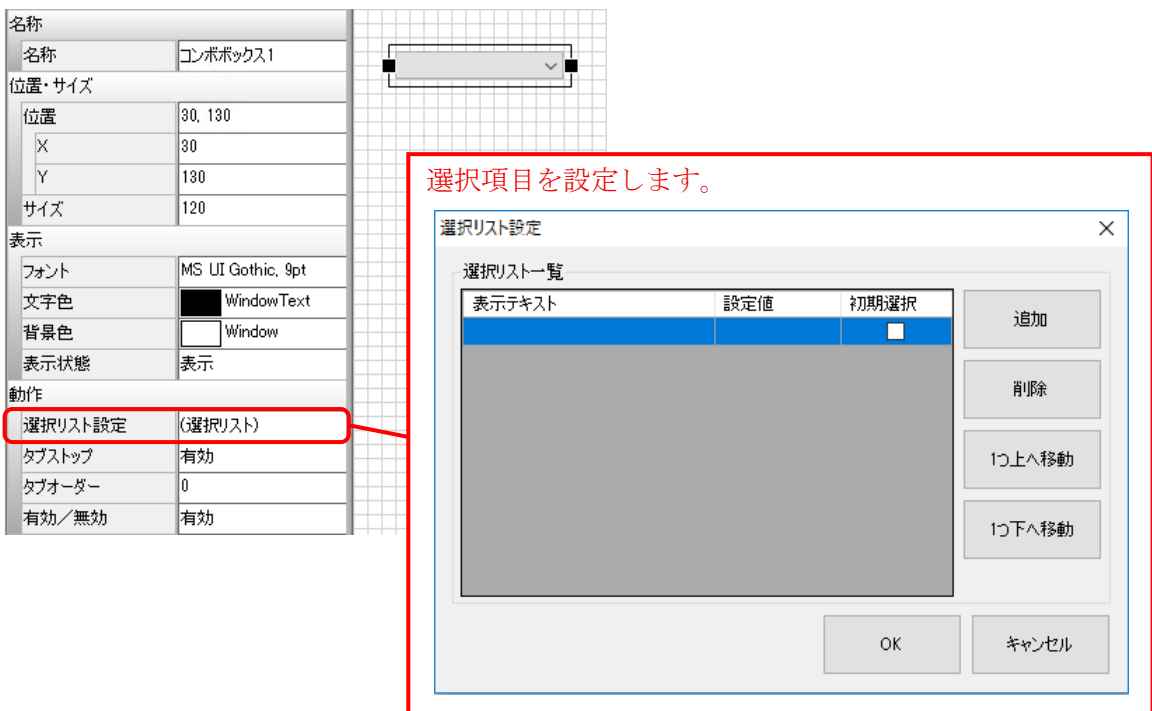
コンボボックス部品は、ドロップダウンリストの選択肢から1つを選択する場合に使用する部品です。

画面から項目を選択させるには、選択リストの設定が必要です。



コンボボックス部品は右にある下矢印をクリックすると、選択一覧が表示される部品です。

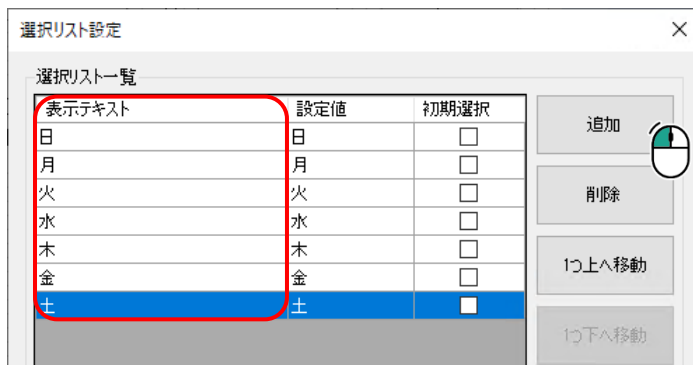
ドロップダウンで表示される項目は、「選択リスト設定」プロパティから項目名の追加、変更、削除が行えます。



#### 3.1 選択肢を設定する

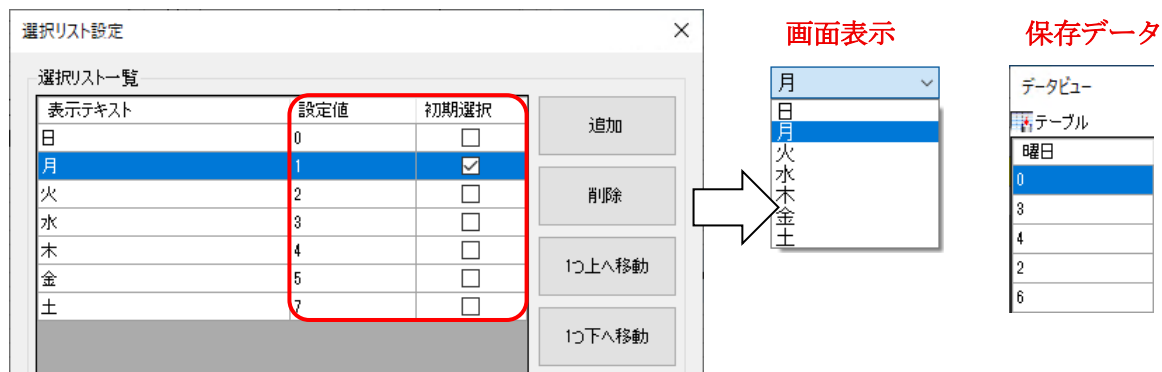
選択リスト設定画面を開き、選択リストを作成してみましょう。

項目の追加、削除、表示順の変更は画面右側のボタンから行います。



「表示テキスト」を入力すると「設定値」にも自動的に同じ内容が入力されます。「表示テキスト」は画面に表示されるテキストで、「設定値」はRADEN 内部に保存される値です。

また、「初期選択」から、初期状態で選択される項目を1つ設定することができます。

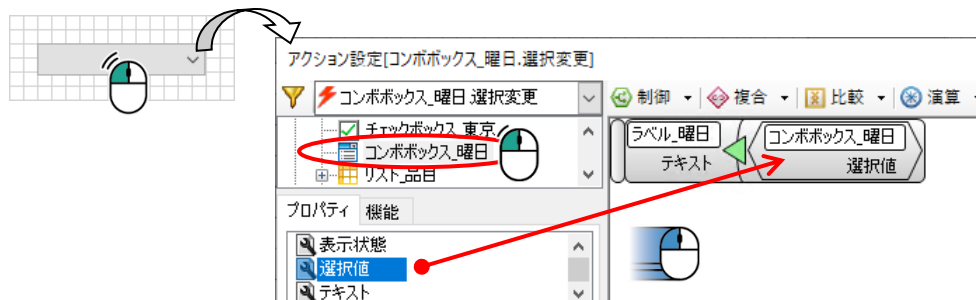


### 3.2 アクションを作成する

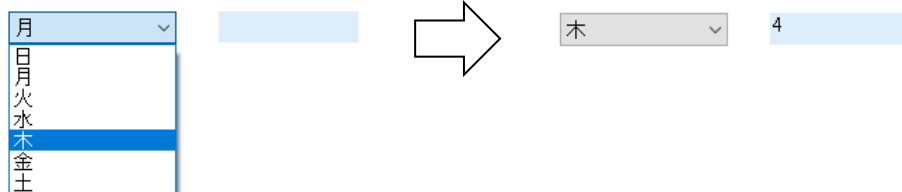
コンボボックス部品は、選択肢が変更された時に発生する「選択変更」イベントを持ちます。

コンボボックス部品の選択結果をラベル部品に取得してみましょう。

アクション設定画面を開き、表示する「ラベル」部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。「テキスト」ブロックに「コンボボックス」部品のプロパティから「選択値」ブロックを代入することで、選択値の取得ができます。

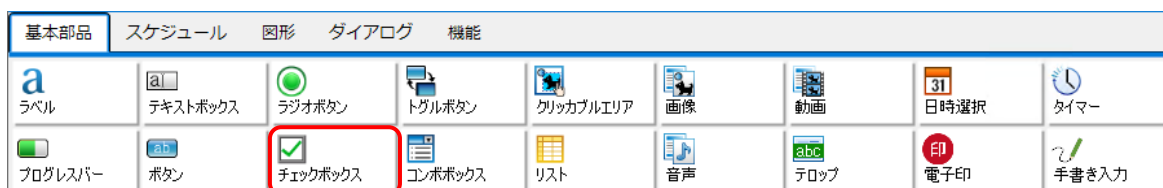


<実行結果>

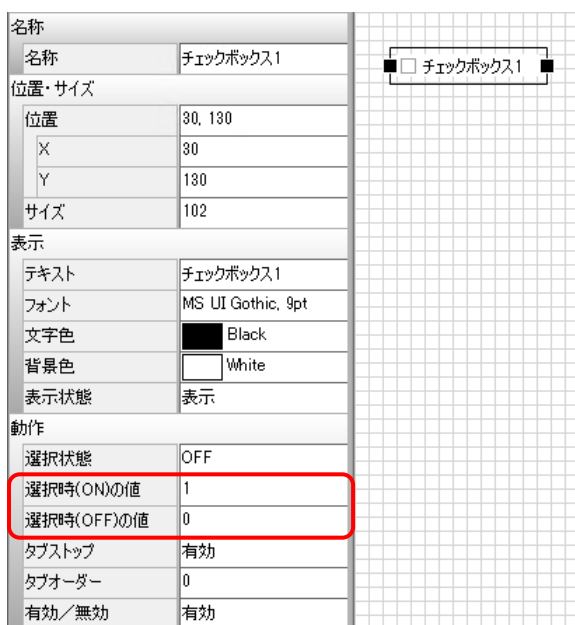


## 4 チェックボックス

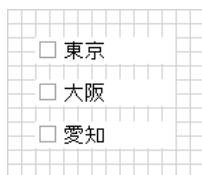
チェックボックス部品は、複数の選択肢から複数の項目を選択できるようにする部品です。チェックを付けることで「はい/いいえ」の意思表示をする場合に使用します。



チェックボックス部品はチェックが「ON」の時、「OFF」の時それぞれ値を設定することができ、保存した際に選択状態が値として保持されます。



部品に対して1つの項目を設定するため、必要な項目分画面に配置します。



< 実行結果 >

画面表示

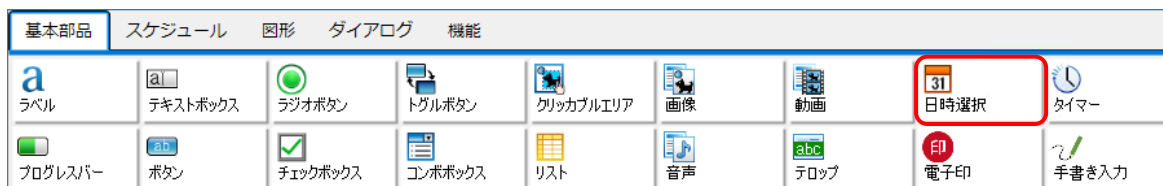
- 東京
- 大阪
- 愛知

保存データ

データビュー		
テーブル		
東京	大阪	愛知
0	0	1
1	1	0
1	0	1

## 5 日時選択

日時選択は、日時の入力が必要な時に、画面上にカレンダーを表示させ選択することのできる部品です。



レイアウトはプロパティから変更できます。初期表示で指定する日時がある場合は、「日時」を入力し、「初期表示」から「設定日時」を選択します。なければ「現在日時」を指定します。

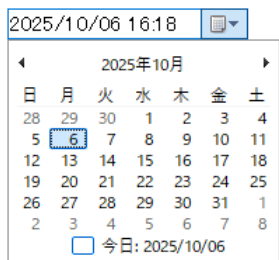
名称	
名称	日時選択1
位置・サイズ	
位置	30, 130
X	30
Y	130
サイズ	120
表示	
日時	2025/10/06 16:05:48
初期表示	現在日時
フォント	MS UI Gothic, 9pt
文字色	■ WindowText
背景色	□ Window
表示状態	表示
表示形式	2011/01/01 00:00
動作	
単位時間	1秒
タブストップ	有効
タブオーダー	0
有効/無効	有効

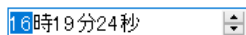
2011/01/01 00:00
2011/01/01
01/01
2011年1月1日
1月1日
00:00:00
00:00
00時0分0秒
00時0分

<実行結果>

日付を表示した場合



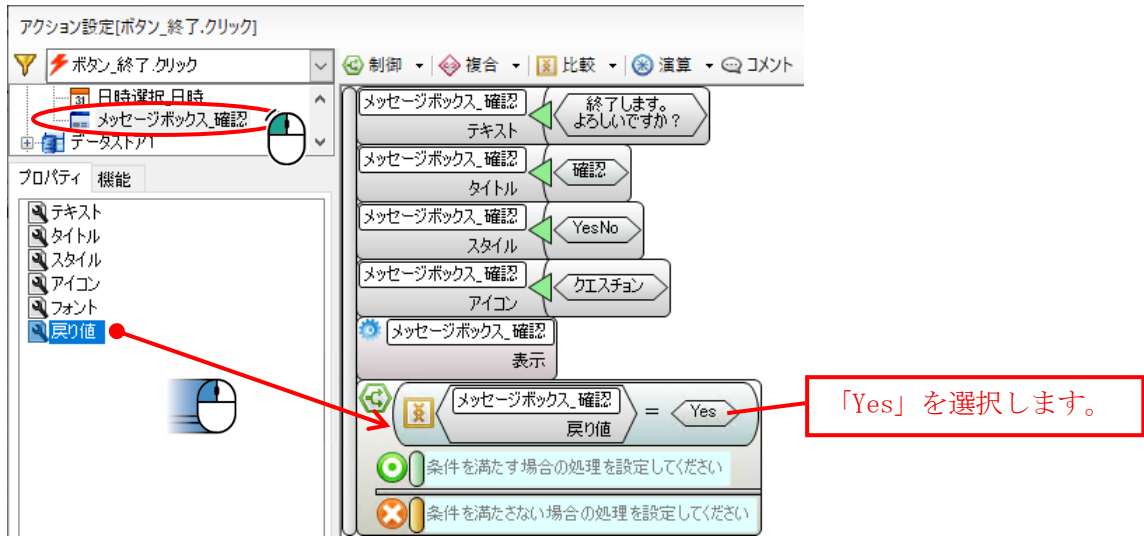
時間を表示した場合



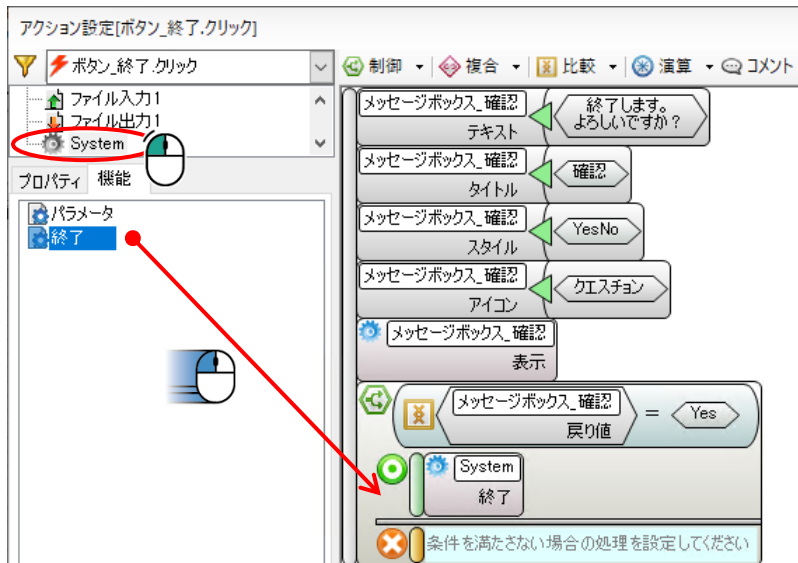


メッセージボックス部品に表示されるボタンのクリック結果を、「戻り値」プロパティで取得することができます。

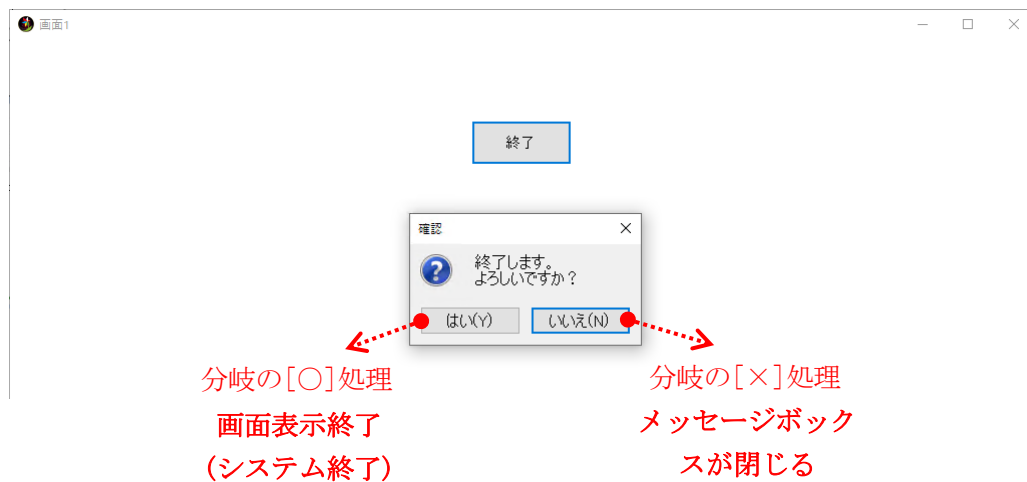
「分岐」ブロックを配置し、条件に「メッセージボックス」部品のプロパティから「戻り値」を配置します。



条件を満たす場合に「System」の機能から「終了」を配置します。

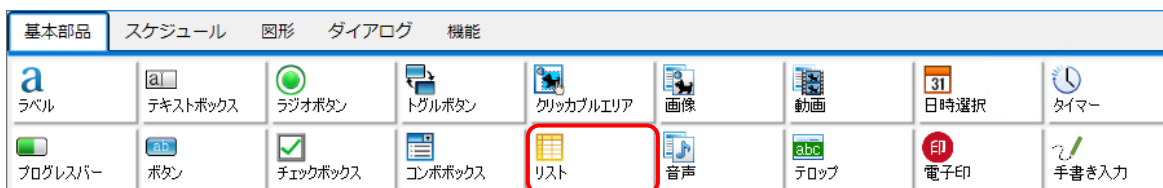


### < 実行結果 >



## 7 リスト

リスト部品はデータを一覧表示する部品です。



リスト部品は「リスト全体のプロパティ」と「列のプロパティ」で分けられているので、プロパティを設定する際は注意しましょう。

### リスト全体のプロパティ

名称	
名称	リスト1
位置・サイズ	
位置	30, 130
X	30
Y	130
サイズ	120, 90
Width	120
Height	90
表示	
表示開始行	0
表示行数	0
行の高さ	20
行自動調整	無効
フォント	MS UI Gothic, 9pt
文字色	WindowText
背景色	White
ヘッダー表示	表示
ヘッダー行の高さ	20
ヘッダーフォント	MS UI Gothic, 9pt
ヘッダー文字色	WindowText
ヘッダー背景色	ControlLight
ヘッダー文字配置	左
罫線表示	表示
偶数行の背景色	
奇数行の背景色	
境界スタイル	境界線なし
表示状態	表示

### 列のプロパティ

名称	
名称	新規列
位置・サイズ	
幅	80
表示	
テキスト	
ヘッダーフォント	MS UI Gothic, 9pt
ヘッダー文字色	WindowText
ヘッダー背景色	ControlLight
フォント	MS UI Gothic, 9pt
文字色	WindowText
背景色	White
テキスト配置	左
セル結合	無効
表示状態	表示
書式	(テキスト)
標準値	
動作	
リサイズモード	変更なし
文字列の制御	なし
実行時リサイズ	無効
編集タイプ	テキストボックス
読み取り専用	有効
日本語入力モード	コントロールなし
入力ルール	

### 7.1 行とヘッダーを設定する

ヘッダーとは、項目名を表示する行のことで、これは非表示にすることもできます。データを表示する行とヘッダーはそれぞれプロパティから設定を変更できます。

行の高さ	25
行自動調整	無効
フォント	MS UI Gothic, 12pt
文字色	WindowText
背景色	White
ヘッダー表示	表示
ヘッダー行の高さ	30
ヘッダーフォント	MS UI Gothic, 12pt, style=Bol
ヘッダー文字色	White
ヘッダー背景色	66, 104, 157
ヘッダー文字配置	中央

名前	電話番号
山田 太郎	058-000-0000
木村 花子	052-000-0000
佐藤 大輔	0565-00-0000
鈴木 春奈	0575-00-0000
田中 信二	0566-00-0000
木村 孝也	0596-00-0000

## 7.2 背景色

背景色は、リスト全体のプロパティから、全体の背景色と行の背景色が設定できます。行の背景色は偶数行と奇数行で別の色が設定できます。

背景色	224, 224, 224
ヘッダー表示	表示
ヘッダー行の高さ	30
ヘッダーフォント	MS UI Gothic, 12pt, style=Bol
ヘッダー文字色	White
ヘッダー背景色	66, 104, 157
ヘッダー文字配置	中央
罫線表示	表示
偶数行の背景色	ActiveCaption
奇数行の背景色	White

名前	電話番号
山田 太郎	058-000-0000
木村 花子	052-000-0000
佐藤 大輔	0565-00-0000
鈴木 春奈	0575-00-0000
田中 信二	0566-00-0000
木村 孝也	0596-00-0000

## 7.3 列幅と文字列の調整

列幅を文字列の大きさに合わせるには、列のプロパティから、「リサイズモード」の項目を設定します。文字に合わせて列幅を変化させることや、リストの大きさに列幅を合わせることができます。

逆に、文字列を列幅の大きさに合わせるには、列のプロパティから、「文字列の調整」の項目を設定します。文字の縮小や折り返しで表示させます。

動作	
リサイズモード	データに合わせる
文字列の制御	折り返し
実行時サイズ	無効
編集タイプ	テキストボックス
読み取り専用	無効
日本語入力モード	コントロールなし
入力ルール	

<リサイズモードの表示例>

変更なし

名前	電話番号
山田 太	058-000-000
木村 花	052-000-000
佐藤 大	0565-00-000
鈴木 春	0575-00-000
田中 信	0566-00-000
木村 孝	0596-00-000

データに合わせる

名前	電話番号
山田 太郎	058-000-0000
木村 花子	052-000-0000
佐藤 大輔	0565-00-0000
鈴木 春奈	0575-00-0000
田中 信二	0566-00-0000
木村 孝也	0596-00-0000

フィル

名前	電話番号
山田 太郎	058-000-0000
木村 花子	052-000-0000
佐藤 大輔	0565-00-0000
鈴木 春奈	0575-00-0000
田中 信二	0566-00-0000
木村 孝也	0596-00-0000

「データに合わせる」を多くの列に設定すると、画面表示が遅くなる恐れがあります。  
必要な列にのみ設定しましょう。

「フィル」は、部品の幅に合わせて列幅を自動で広げる設定です。部品が列で埋まっている場合は調整されません。  
※この設定は1列のみ設定してください。複数列設定されている場合、一番左側の列が優先されます。

<文字列の調整の表示例>

縮小

名前	電話番号
山田 太郎	058-000-0000
木村 花子	052-000-0000
佐藤 大輔	0565-00-0000
鈴木 春奈	0575-00-0000
田中 信二	0566-00-0000
木村 孝也	0596-00-0000

折り返し

名前	電話番号
山田 太 郎	058-000- 0000
木村 花 子	052-000- 0000
佐藤 大 輔	0565-00- 0000
鈴木 春 奈	0575-00- 0000
田中 信 二	0566-00- 0000
木村 孝 也	0596-00- 0000



ヘッダーや行の高さは自動に変化しません。文字の大きさを変更した時や、折り返し表示をする時は、行の高さを調節してください。

### 7.4 スクロール

リスト部品に列を追加すると、部品範囲に収まらなくなる場合があります。

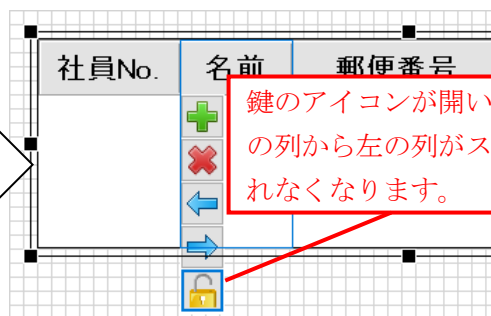
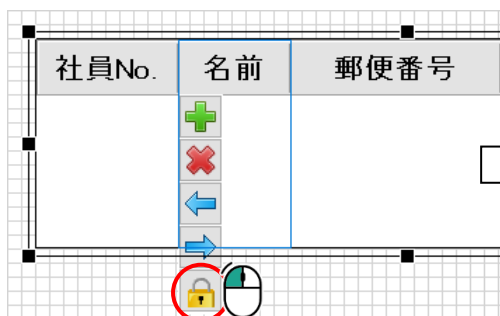
デザイナーで表示しきれない場合は、部品の下側に ◀ ▶ ボタンが表示され、クリックすると1列分ずつスクロールします。

プレーヤーで表示しきれない場合は、スクロールバーが表示されます。

社員No.	名前	郵便番号	住所
1	山田 太郎	000-0001	岐阜県岐阜市
2	木村 花子	000-0002	愛知県名古屋市

横のスクロールで、特定の列までを固定したい場合は、「スクロールロック」の設定を行います。

※スクロールロックの設定は、「リサイズモード」プロパティの「フィル」が設定された列があると選択できません。



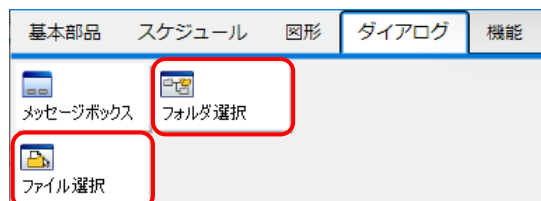
鍵のアイコンが開いている状態の列から左の列がスクロールされなくなります。

社員No.	名前	住所	電話番号
1	山田 太郎	岐阜市	058-000-0000
2	木村 花子	名古屋市	052-000-0000

## 8 ファイル選択/フォルダ選択

RADEN アプリケーション使用時に、ユーザーがファイルやフォルダの選択を行う場合に使用する部品です。

※この部品は実行時、画面に表示されません。



ファイル選択は、ファイルを「開く」か「保存」するか操作の選択をプロパティから行います。また、選択するファイルの拡張子に制限をかけることもできます。

フォルダ選択は、選択画面で「新しいフォルダ」の作成に制限をかけることができます。

### ファイル選択のプロパティ

名称	
名称	ファイル選択1
位置・サイズ	
位置	36, 126
X	36
Y	126
表示	
タイトル	
動作	
選択タイプ	開く
ファイルパス	
ファイル名	
フォルダ名	
フィルタ	

### フォルダ選択のプロパティ

名称	
名称	フォルダ選択1
位置・サイズ	
位置	35, 135
X	35
Y	135
動作	
フォルダ名	
注釈	
新しいフォルダ	無効

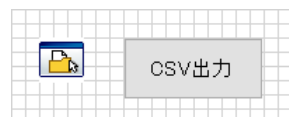
特定の拡張子のファイルのみ表示します。  
拡張子が複数の場合は半角カンマ(,)で区切ります。

フィルタ設定	
選択リスト一覧	
テキスト	拡張子
Excel	xls,xlsx

### 8.1 ファイル選択

ファイル選択部品を使用する場合は、アクション設定から表示動作を呼び出します。

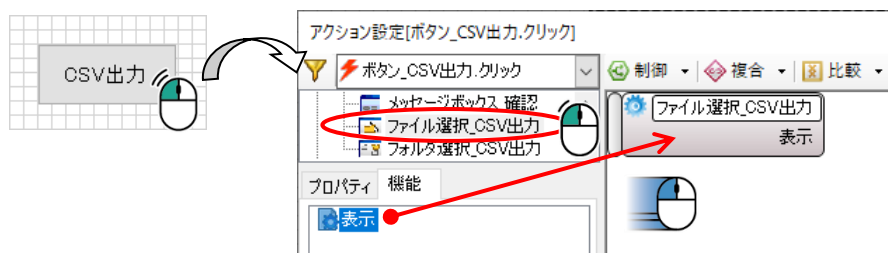
「ファイル出力」オブジェクトと組み合わせて、書き込む CSV ファイルを「ファイル選択」部品から選択するアクションを作成してみましょう。



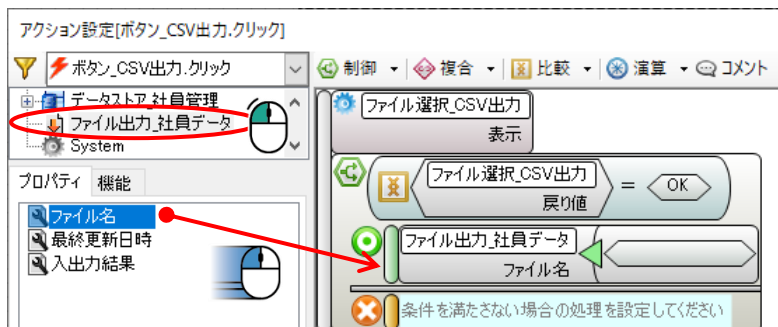
ファイルの保存に使用する場合は、「選択タイプ」プロパティを「保存」にして、保存ファイルの拡張子を設定します。

動作	
選択タイプ	保存
ファイルパス	
ファイル名	
フォルダ名	
フィルタ	CSVファイル*.csv

ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、「ファイル選択」部品の機能から「表示」ブロックを配置します。

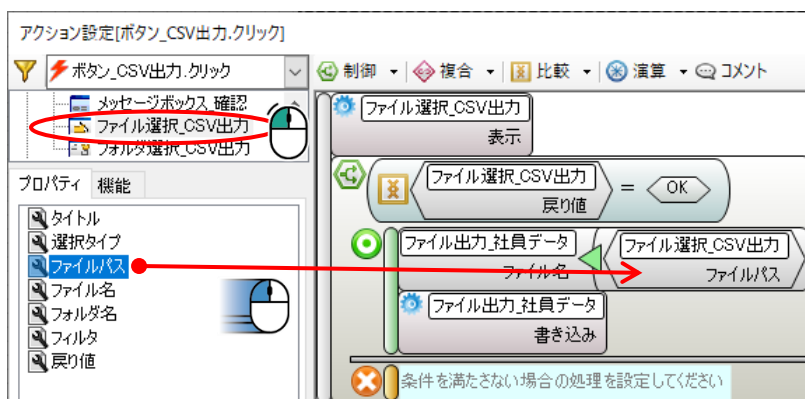


ファイル選択画面で「OK」をクリックした時のみ次の処理を動作する分岐を作成し、条件を満たす場合の処理に「ファイル出力」オブジェクトのプロパティから「ファイル名」を配置します。

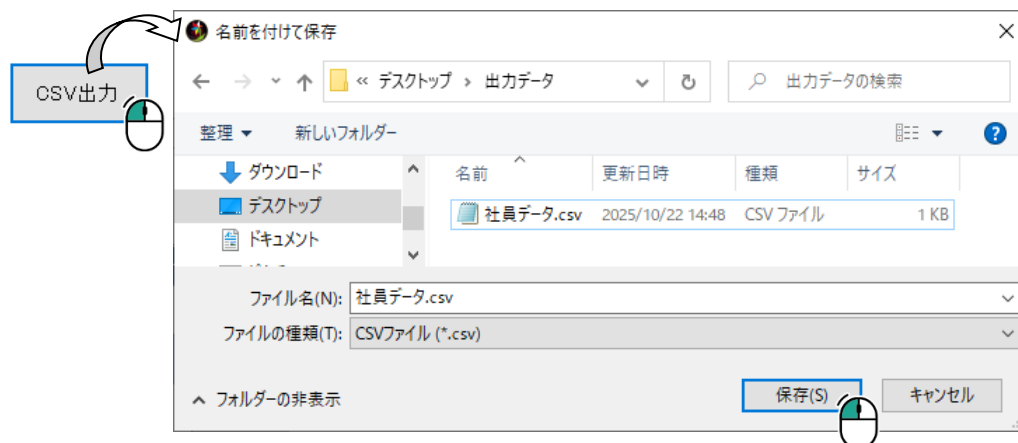


「ファイル選択」部品のプロパティから「ファイルパス」を選択し、「ファイル名」に代入します。

「ファイル出力」オブジェクトの機能から「書き込み」を配置したら、選択したファイルへファイル出力する動作の完成です。



< 実行結果 >

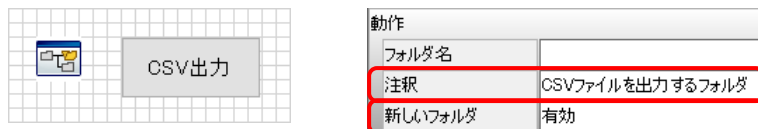


## 8.2 フォルダ選択

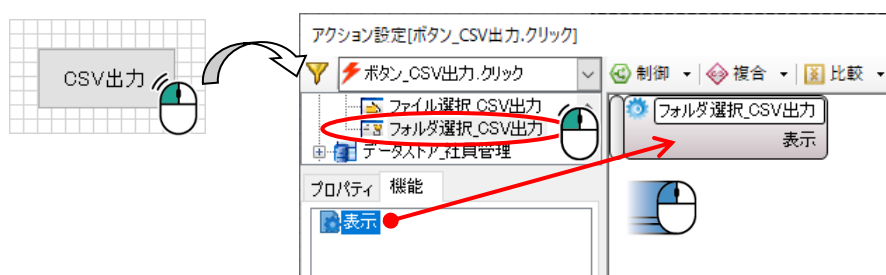
フォルダ選択部品を使用する場合は、アクション設定から表示動作を呼び出します。

「ファイル出力」オブジェクトと組み合わせて、CSV ファイルを保存するフォルダを「フォルダ選択」部品から選択するアクションを作成してみましょう。

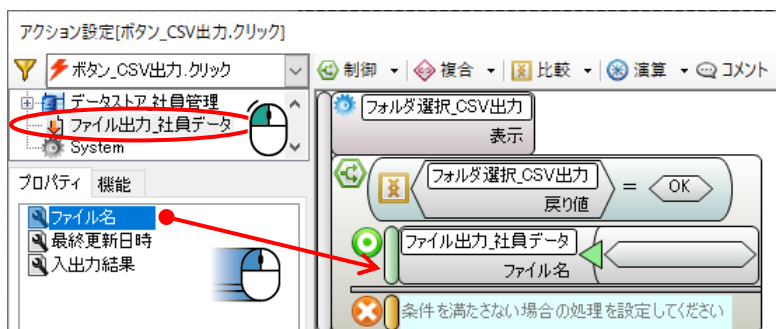
フォルダ選択画面で新しくフォルダを追加する場合は「新しいフォルダ」を「有効」に、フォルダ選択に説明が必要な場合は「注釈」にテキストを入力します。



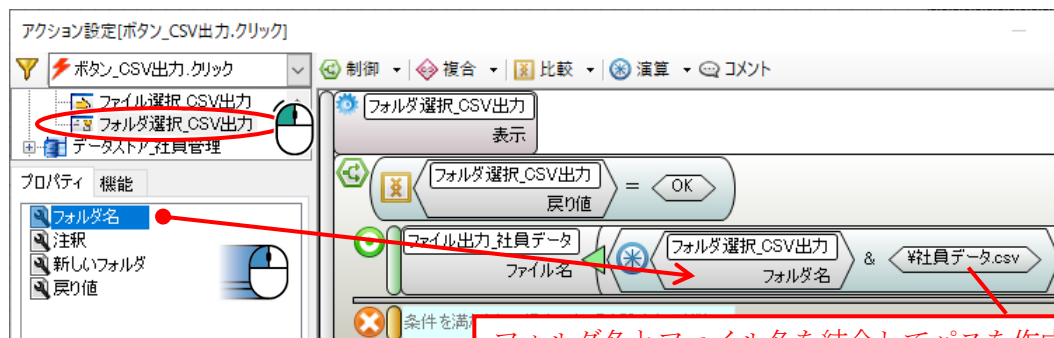
ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、「フォルダ選択」部品の機能から「表示」ブロックを配置します。



フォルダ選択画面で「OK」をクリックした時のみ次の処理を動作する分岐を作成し、条件を満たす場合の処理に「ファイル出力」オブジェクトのプロパティから「ファイル名」を配置します。

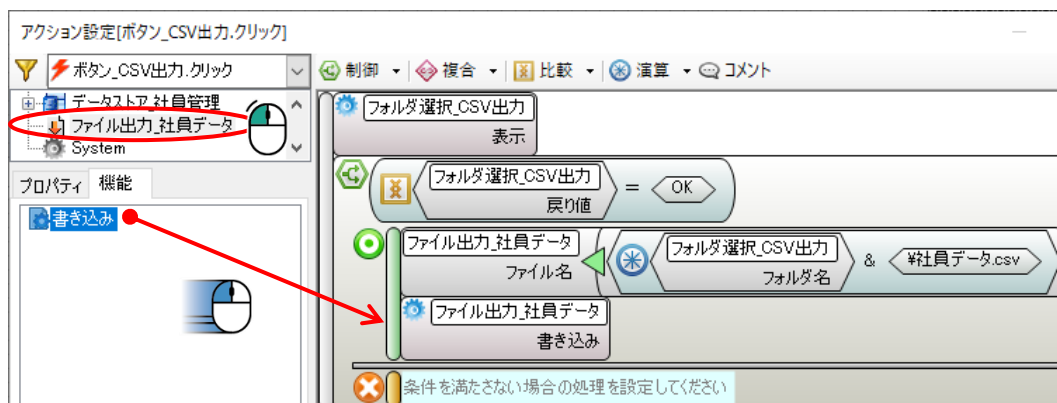


ファイル出力ではフォルダ名とファイル名が必要なため、選択したフォルダ名と固定のファイル名を結合する「&」部品を配置します。左側に「フォルダ選択」部品のプロパティから「フォルダ名」を配置し、右側にファイル名を入力します。

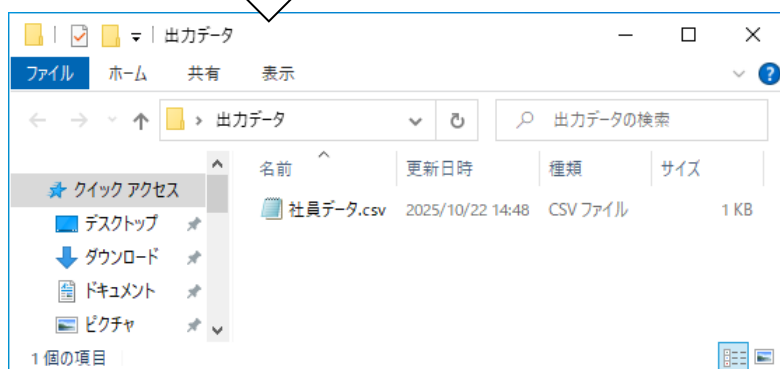
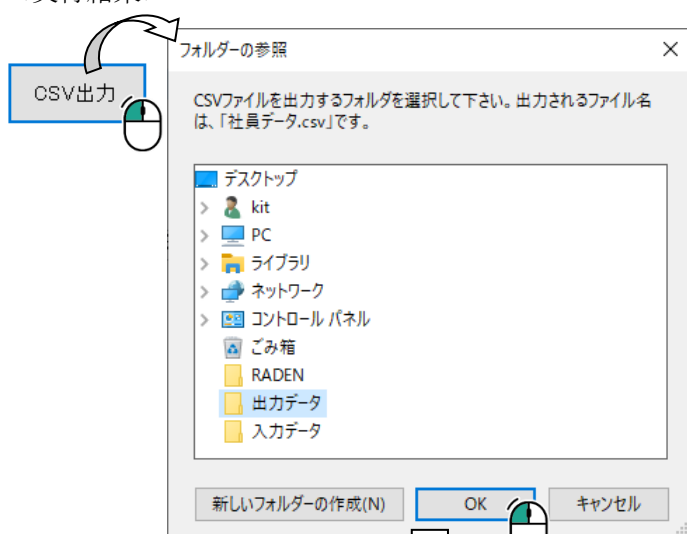


フォルダ名とファイル名を結合してパスを作成するときは、「¥ (円マーク、バックスラッシュ)」の区切りが必要です。

「ファイル出力」オブジェクトの機能から「書き込み」を配置したら、選択したフォルダへファイル出力する動作の完成です。



<実行結果>

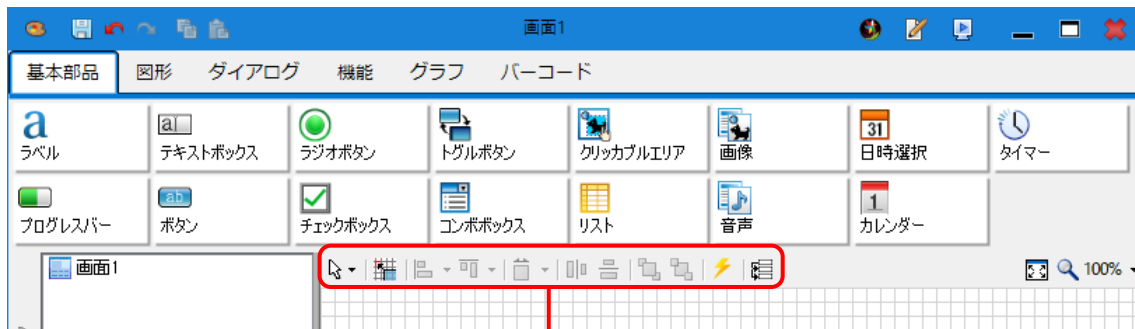


## 9 タブオーダー

画面に配置した部品の内、ユーザー操作が可能な部品（ボタン、テキストボックスなど）は、キーボードの「Tab」キーで選択を切り替えることができます。


切り替えの順番は各部品の「タブオーダー」プロパティから設定できますが、タブオーダー設定機能を使用すると方法をおすすめします。

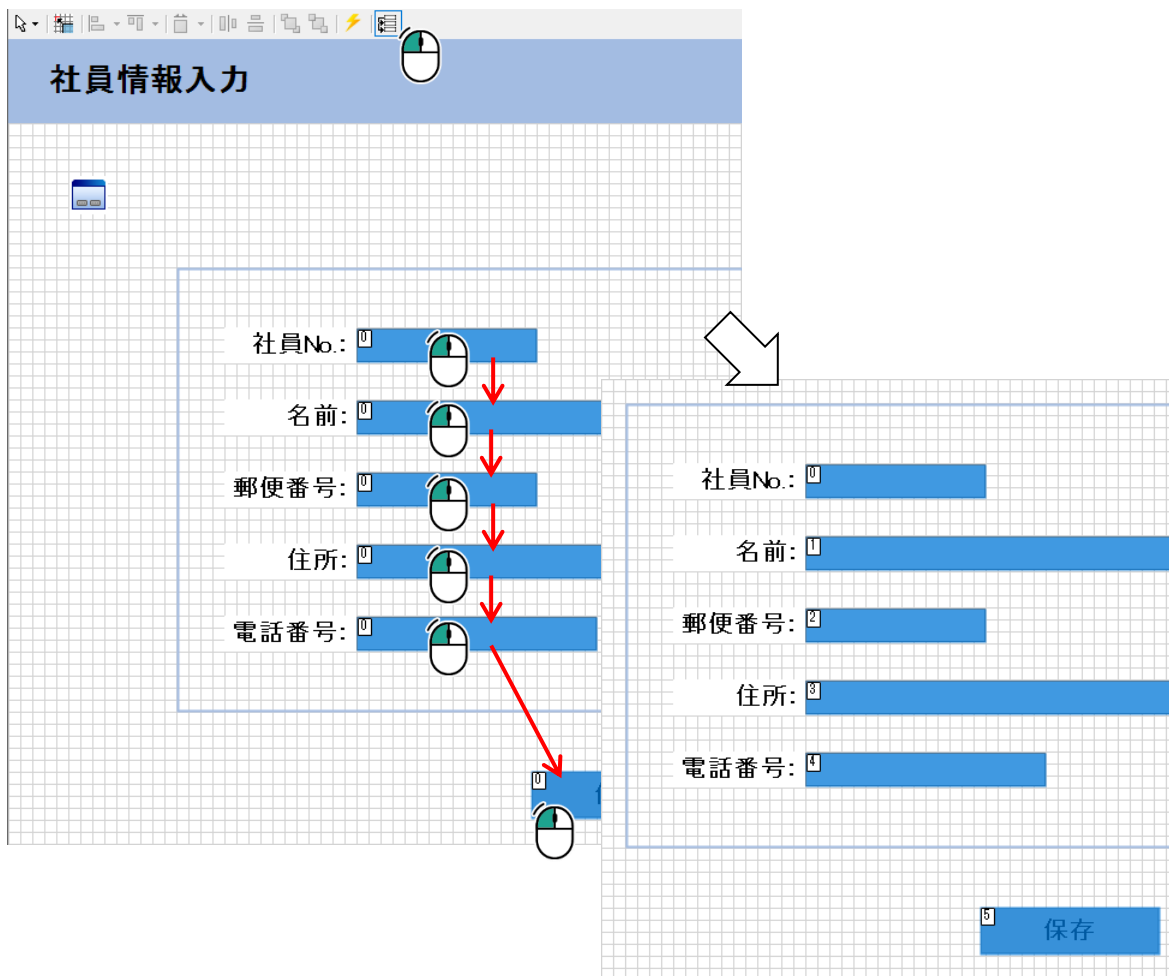
タブオーダー設定機能はツールバーの  ボタンのクリックで呼び出します。




ツールバー

「RADEN を使おう！入門編 Part1」で作成したプロジェクトを開いて、タブオーダーを設定してみましょう。

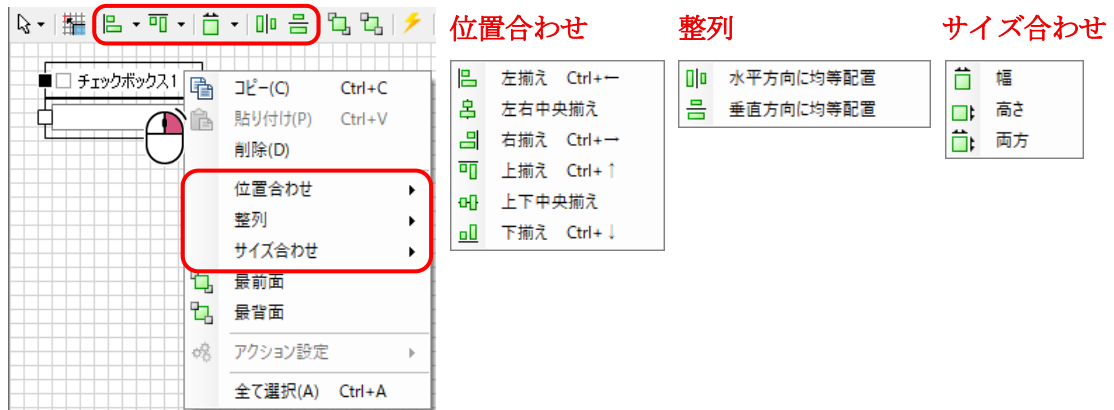
 ボタンのクリックでタブオーダーを設定できる部品が青に変わります。部品左上の数字がタブオーダーの順番です。この状態で部品をクリックするとタブオーダーが設定できます。



設定後、再度  ボタンをクリックすると、タブオーダー設定モードが終了します。

## 10 レイアウト調整ツール

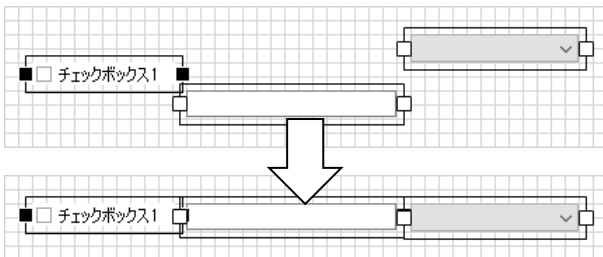
画面に複数の部品を配置した際に役立つ機能が、レイアウト調整ツールです。



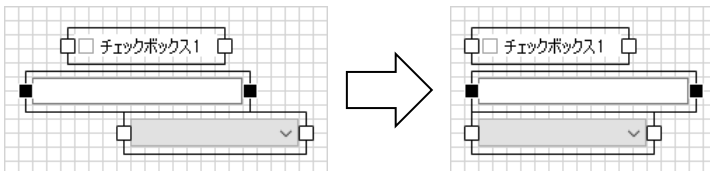
レイアウト調整ツールは複数の部品を選択した時のみ使用でき、ツールバーの各種調整ボタン、または右クリックで表示される調整項目を選択します。

選択されている部品の内、フォーカス状態の部品に合わせて位置が調整されます。

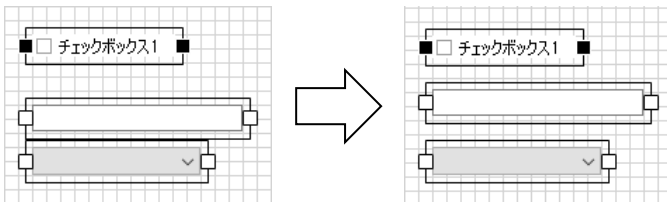
- ・位置合わせ（上揃え）



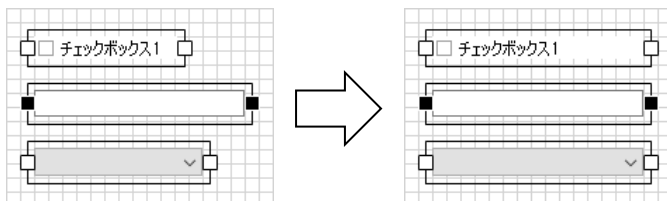
- ・位置合わせ（左揃え）



- ・整列（垂直方向に均等配置）



- ・サイズ合わせ（幅）



以上で『RADENを使おう！ 入門編 Part2』は終了です。お疲れ様でした。  
引き続き、『RADENを使おう！ 実践編 Part1』に取り組んでください。

# RADEN を使おう！

## 入門編 Part2

---

2026年 5月14日 第1版

発行

**株式会社 KIT**

〒460-0026

愛知県名古屋市中区伊勢山2丁目11-15 ASビル金山

Copyright (c) 2026 KIT Co.,Ltd. All Rights Reserved.